

しるくふくし

NO. **104**

OCT 2026

あなたの地域に、
どんな「ありがとう」がありますか。
あなたが、その中にいます。



topic 01

80回、つないだもの

赤い羽根
共同募金運動

八十周年
ありがとう。これからも一緒に。

topic 02

地域は、変わった？

令和7年度 社協の事業と
お金の使われ方



▲中央まちカフェ実行委員会 代表の木村健治さん



▲みんなでカレーライス作り。楽しみながらも真剣な表情の子どもたち。



▲これからも、てくてくと歩いてみんなで集まれるように。元気を作る体操時間。

「ありがとう」は、
だれか「人では生まれない。」

地

域は、いつから「地域」になるのでしょうか。同じ

場所に住んでいるだけでは、まだ地域とは呼べないのかもしれない。名前は知らなくても、顔を見たことがある。顔を合わせれば、軽く手を上げる。「おおきに」と、少し立ち話をする。そんな何気ないやりとりが増えていくうちに、気がつけばそこには、人と人とのつながりが生まれています。

一滴から広がる「地域」

JR安曇川駅の西側、安曇小学校や安曇川中学校にも近い、

て行ける居場所のこと。まずは隣近所から、顔の見える関係を作っていくと始めた、小さな一滴です。それでも、青空カフェを始めれば「手伝うよ」と、公園の草刈りに協力してくれる人がいました。あるときには、住民の声をきっかけに、カフェにあわせて野鳥に親しむ会が開かれました。

特別なだれかが何かをして、「地域」ができるわけではありません。一人が声をかけると、もう一人が応える。そして、ま

安曇川町中央4丁目。高齢化率は約2割と、若い世代も多く暮らすこの地区には、自治会があ

りません。「もしものとき、この地区で、だれとつながればいいのかだろう」。それがこの地区の気がかりでした。災害が起きたとき、困っている人がいたとき、隣にだれが住んでいるのかもわからないければ、声をかけることもできないかもしれません。

この地区で始まったのは、月に一度の中央まちカフェ「てくてく」でした。「てくてく」とは、一滴のしずくから輪が広がり、地域の人がてくてくと歩い

た一人が加わる。集まった人がそれぞれに参加し、少しずつ自分たちの居場所にしていく。

「てきてく」にあるのは、人を中心にした小さなつながりの広がりです。一つのつながりは小さな一滴かもしれませんが、その広がりの中で、ただ同じ場所に住んでいた人たちが「地域」になっていくのでしょうか。

一人から、みんなへ

今年で80回目を迎える共同募金が支えているのは、地域のこうした小さなつながりと、その広がりです。声をかけた人。応えてくれた人。準備をした人。参加した人。そこにいてくれた人。「ありがとう」は、だれか一人では生まれません。地域もまた、だれか一人だけでは作れません。ひとりひとりの小さなかわりが、地域のつながりへと広がっていきます。だからこれは、あなたのお話です。

子どもたちがスポーツと出会う “最初のきっかけを地域で育てる”

一人の挑戦が、子どもたちの挑戦へ

「ナイスシュート！うまいまい！」

8月の体育館は、じっとしているだけでも汗がにじむ暑さ。それでも子どもたちは、初めてのハンドボールに興味津々。汗だくになりながらも、暑さに負けないほどパワフルにボールを追いかけ、コートを駆け回ります。シュートが決まれば歓声が上がリ、惜しくも外れれば「惜しい！」「ナイスキーパー！」と、また次の挑戦へ。そのひとりひとりの新たな一歩を、子どもたちのすぐそばで、同じ目線で後押ししている人がいます。

その人たちこそ、たかしまスイッチのみなさんです。スポーツは体を動かすだけでなく、その楽しさを教えてくれる。仲間と協力すること、挑戦すること、乗り越えることの喜びを教えてくれる。そう話すのは、代表の奥澤さん。スポーツと子どもたちが出会うきっかけとして、市内の幼稚園や保育園でのボール遊びの場、小学校や学童保育所、地域のイベントなどでのスポーツ体験会を開いています。

この活動の原点は「だれもが気軽に参加できる、体験の場を作りたい」との思い。そんな一人の「やってみたい」から生まれたたかしまスイッチの挑戦は、仲間を集め、「たかしま未来助成金」に支えられながら、今、地域の子どもの「やってみたい」へとつながっています。

「子どもたちに、もっとスポーツの楽しさを届けたい」。

今日も、地域の子どもたちは新しいスポーツに出会い、挑戦しています。たかしまスイッチの挑戦は、子どもたちの挑戦とともに、これからも続いていきます。

一般社団法人

たかしまスイッチ

奥澤 航一郎さん（写真左）

八木 優人さん（写真中央）

三好 優雅さん（写真右）



鉄道のレールが続いていく先に、 多世代の新しい出会いを作りたい

はじまりは、胸の中に長年しまっていた一つの夢

「今日は、どの電車に乗れるかな」

子どもたちが目を輝かせながら、ミニ列車をのぞき込んでいます。湖西線で親しまれた「かぼちゃ電車」や蒸気機関車など、車両もレールもすべてが手作り。作ったのは、かじや鉄道の会の桂田さん。

「いつか電車を作ってみたい」という長年の夢を、仕事で培った技術を生かして形にしたのです。初めて子どもたちに乗せたとき、そのはしゃぐ姿を見て「作ってよかった」と心から思ったと言います。

一方、今津宮の森公園の清掃活動を長年続けていた谷本さんは、もっと人が交流できる、にぎわいのある公園にできないかと考えていました。桂田さんの「もっと多くの人に楽しんでもらいたい」と、谷本さんの「公園ににぎわいを作りたい」。二人の思いが出会い、ミニ列車は桂田さん一人の作品から、地域みんなが楽しめる活動へと、次のレールを進み出しました。今では、公園で定期的に乗車体験会を開催。市内のイベントにも出張し、子どもから高齢者まで幅広い世代がミニ列車を楽しんでいます。

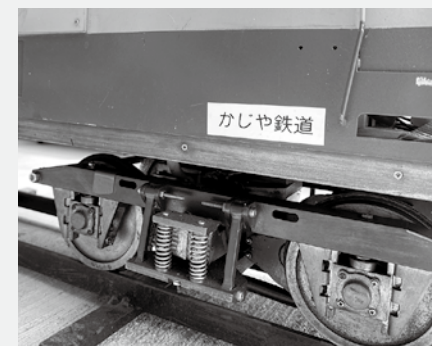
桂田さんが作った車両は見た目、しくみともに精巧そのもの。しかし、その重量は100kgに迫ります。活動が広がりを見せる一方で、車両の移動や修繕など、続けるための費用も必要です。「活動を少しでも長く続けたい」と活用されたのが、「たかしま未来助成金」です。

一人の「いつか電車を作ってみたい」から始まった夢は、二人の出会いによって地域の活動となり、たくさんの「また乗りたい！」という声に背中を押され、この地域を走り続けています。

かじや鉄道の会

桂田 正孝さん（写真左）

谷本 勇夫さん（写真右）



未来地図

一人の「やってみたい」から、
地域が動く

この1年、 地域はどう 動いた？

令和7年度 社協の事業とお金の使われ方

住

民が少なくなっています。
地域のつながりがなくなっています。

時代や生活スタイルが変化していく中で、地域福祉を進めるために取り組むべき課題は、ますます複雑になっています。

それでも、この1年、地域ではさまざまな取組みが推進されました。

○住民のみなさんの声を集めた「第4次高島市地域福祉推進計画」の策定。

○見守りネットワーク活動を通

じた、身近な地域におけるつながりづくり。見守り会議による住民と専門職の連携促進。

○社会課題となっている「身寄り問題」に対する支援ガイドラインづくり。

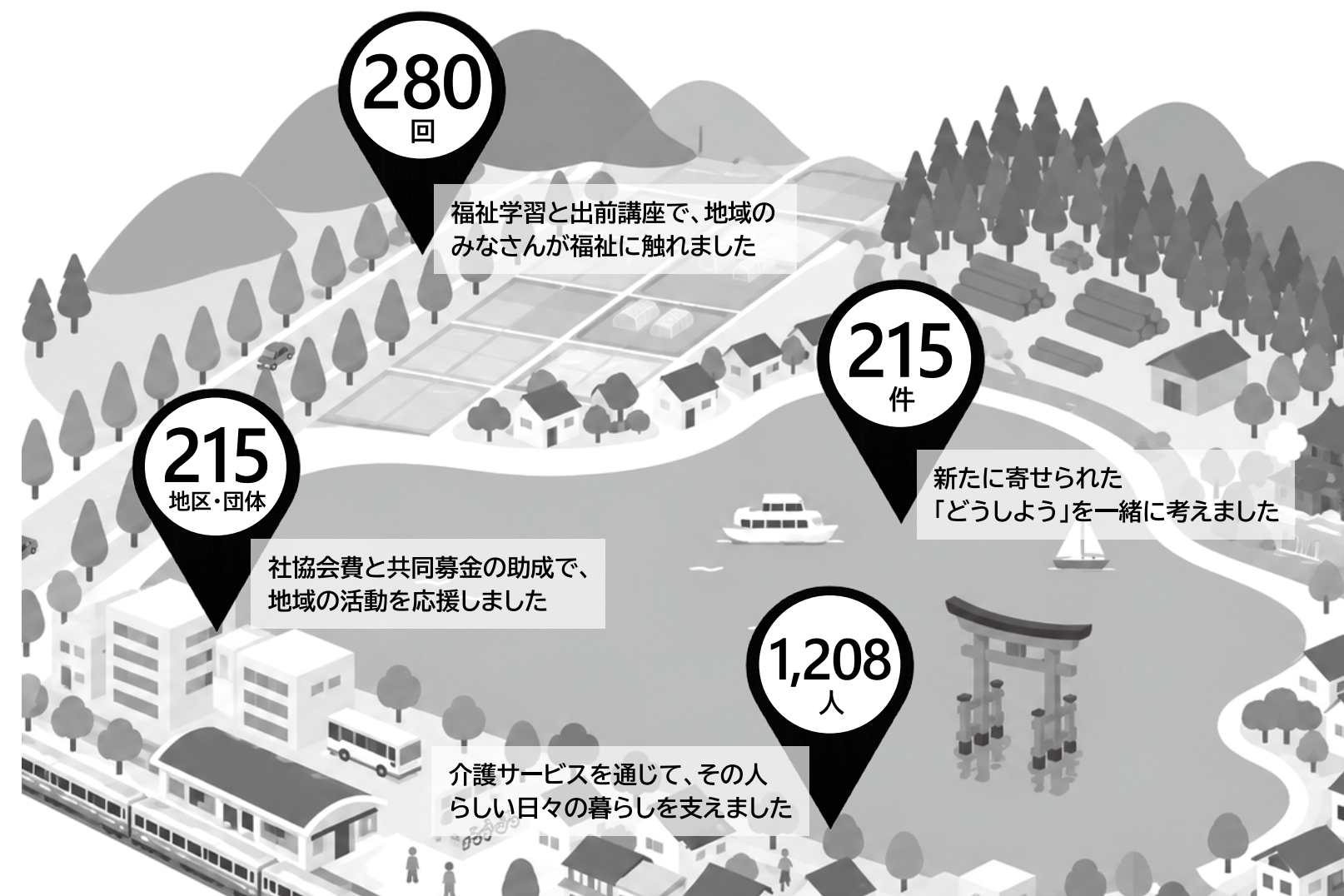
○持続可能な介護サービスの提供に向けた、事業の集約化と効率化など。

これらの取組みの出発点は、「自分たちが暮らす地域を、自分たちで良くしていきたい」という住民のみなさんの思いです。

社協はその思いに寄り添い、人と人、人と活動をつなぎながら、

「ふ」だんの「く」らしの「し」あわせが続くためのしくみづくりに取り組んでいます。

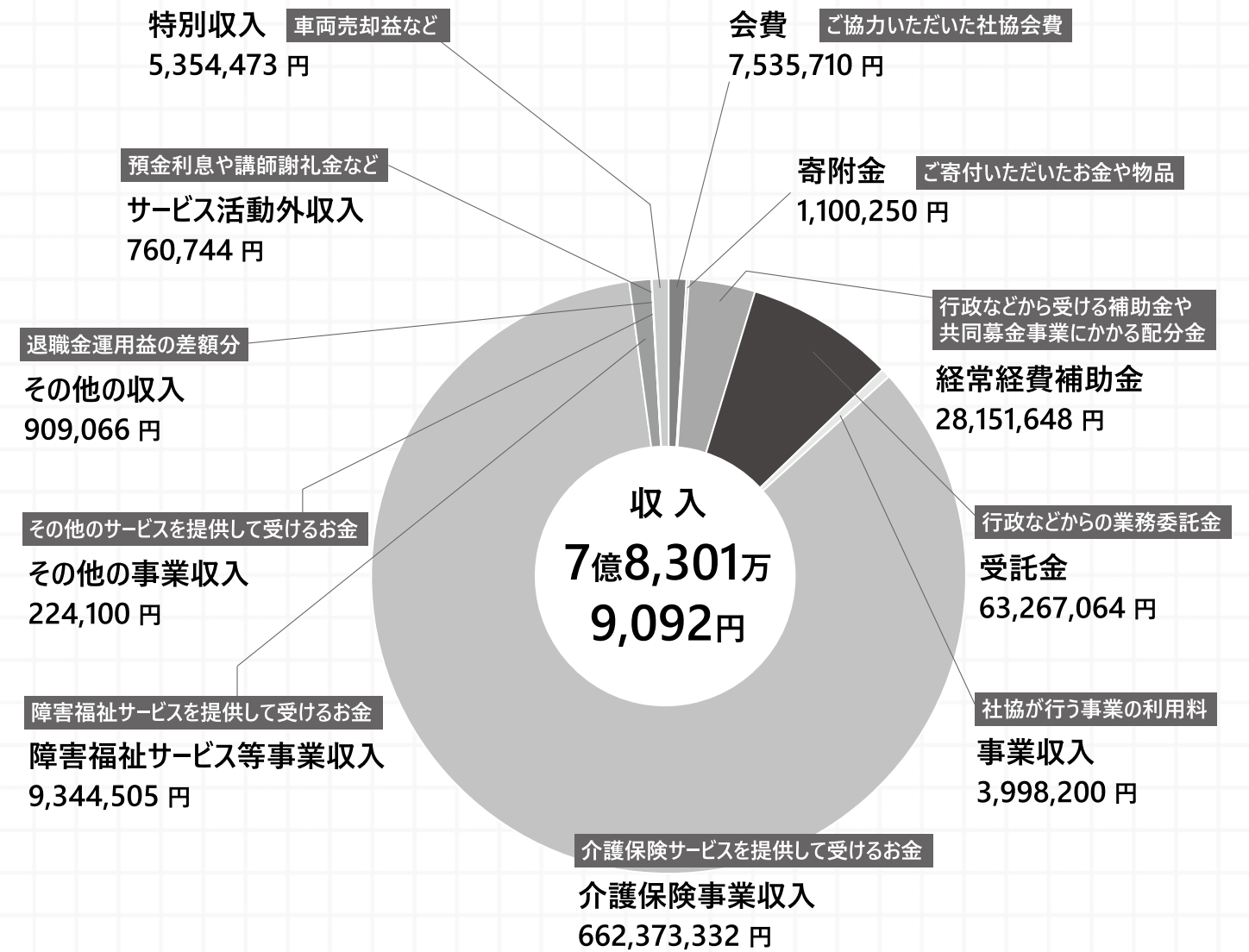
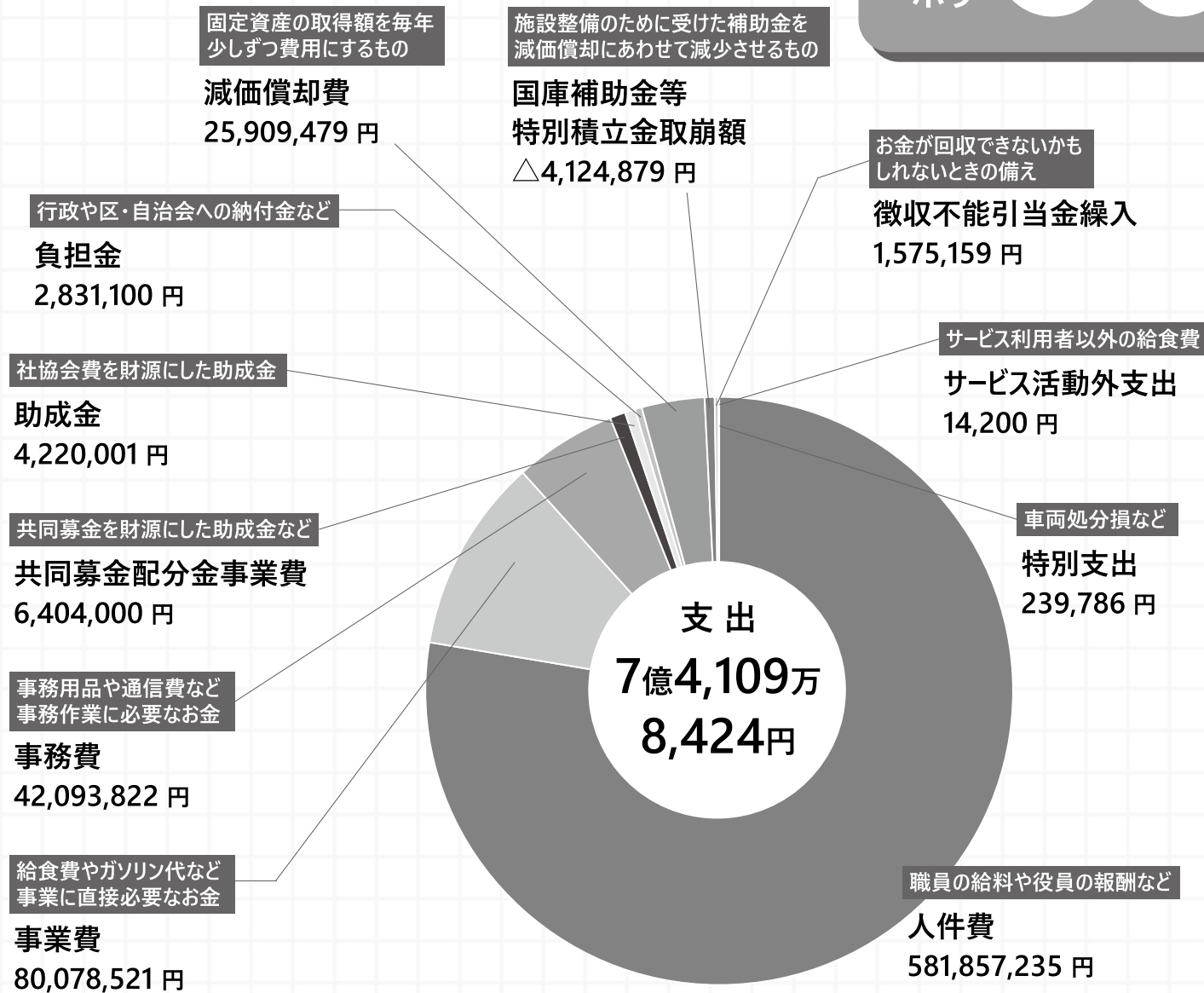
この高島市で取り組むべき課題は少なくありません。しかし、そこにあるのは難しさだけでなく、みなさんの姿に目を向けると、その表情はこんなにも真剣で、それでいていきいきとしているのですから。



決算

お金の先にある “地域”

決算は、社協にかかわるお金が、1年間でどのように地域に使われたのか、“お金の先にあったもの”を住民のみなさんにしっかり伝えるための大切なしくみです。地域住民の代表でもある理事と評議員による審議を経て、承認されます。



決算まとめ解説

収入の決算額は、前年度から1,396万円の増加となりました。介護保険事業や障害福祉サービス等事業による収入が増加した一方で、会費などの民間財源が減少しました。高島市の「心」だんの「く」らしの「し」あわせを実現するために、高島市のみなさんの参加、協力が得られるよう引き続き努めていきます。

支出の決算額は、前年度から5,943万円の減少となりました。これは、職員の退職による人件費の減少が主な要因です。数字上では、ここ数年の厳しい状況から、事業の収益性や安定性が健全な水準まで改善しましたが、人材の確保が引き続き大きな課題として浮き彫りになった1年となりました。



社協会費は、 どう使われた？

みなさんにご協力いただいた社協会費は、その全額を地域福祉の推進のために活用させていただきました。

具体的には、みなさんの生活にもっとも近い、区・自治会で取り組む住民主体の活動を応援するために全体の57%を活用し、残りの43%は市内全域を対象とした事業に活用しました。

56.8% 福祉推進委員会活動支援

地域で取り組む福祉活動を応援する助成金を、市内149の区・自治会に交付しました。

4.4% 福祉のまちづくり推進委員会

第4次地域福祉推進計画の策定など、高島市の地域福祉を前に進めるために話し合いました。

2.8% 無料法律相談

気軽に法律相談を利用できる機会として、離婚や相続問題など、1年間で36件の相談を受け付けました。

36% その他の福祉活動

広報誌の発行、住民福祉こんだん会の開催に必要な会場費などの諸経費として活用しました。



「復旧したと思っていた」— 能登で見た、災害のその後と希望

災害ボランティア Report

高島市災害ボランティア
活動連絡協議会

令和6年の元日を襲った、能登半島地震から2年7か月。

「もう、少しずつ元の生活に戻っているのだろう」。そう思い視察に向かった私たちが見たのは、傾いた電柱、隆起した道路、ブルーシートがかかった屋根。復旧は、まだ終わっていませんでした。被災した住民の方からは「断水で半年間、バケツでトイレをしていた」、「地震の後の水害で、心が折れた」など、想像を超える話も聞きました。

心に残った、住民の方の言葉があります。「どん底になったとき、ボランティアの人が来てくれた。土砂をのけてくれて、希望が見えた」。だれかの「もう無理かもしれない」を、「もう一度やってみよう」に変える人の力を、改めて実感しました。

私たちは普段、地域に出向き、防災を学ぶ出前

講座も行っています。能登で見て、聞いて、感じたことを、今度は高島市のみなさんに伝えていきます。今や災害は忘れる前にやってきますが、備えることはできます。家族と話す。近所の人と声をかけ合う。地域で防災について考える。そんないつものつながりが、もしものときの「希望」を作っていきます。

問 高島市災害ボランティア活動連絡協議会事務局
25-5730（地域福祉課 担当:宮田、芝山）



年間
連載

生活支援コーディネーターだより

ヒト

マチ

クラシ

地域の嬉しいことや旬の話題を、みなさんと共有します。

「あったらいいな」を、「あってよかった」へ。

「一人で抱えなくていい」場所を、もう一度。 ひまわり会(介護者の会)の再出発

「ここがあったから、救われた」

「次に起こることを教えてもらえたから、心の準備ができた」

これは、介護者の会として今津町で活動している「紅葉（もみじ）の会」の参加者の言葉です。以前、朽木にも「ひまわり会」という介護者の会がありました。参加者がいなくなり、活動は中断していましたが「もう一度、ひまわり会があったら」との住民の声も聞く中で、介護者がつどえる場所の必要性を改めて感じていました。

そこで、実際に話を聞いてみようと思つた紅葉の会に参加。そこでの参加者の言葉が「ひまわり会をもう一度始めたい」という思いを強めました。住民の声をきっかけに、朽木住民福祉協議会や朽木診療所など、地域の人たちと準備を進め、ひまわり会は再び動き始めたのです。

ひまわり会では、同じ悩みのある人や介護を経験した人と話したり、診療所の看護師に相談することもできます。

「時間と日が合えば、ちょっと行ってみようと思ってもらえる場所になりたいね」。住民の声から再出発したひまわり会は、今、みんなで支え、みんなが支えられる場所となっています。（宮田）

新しいことを、始めなくてもいい。 “いつもの行事”が、新しいつどいの場に

「サロンを始めるとしても、カフェだけでは、参加するきっかけがない人もいるのでは？」

ことのきっかけは、元民生委員の区民の気づき。今津町梅原区では今年度、新しく始めた「地域ふれあいサロン」を、昔から続いてきた区の行事と組み合わせることにしました。

8月16日、お寺に集まった区民のみなさん。この日は大きな数珠を順番に回しながら、ご先祖様を供養する「数珠くり」が行われました。「今、何回やった？」、「まだまだ、108回までであるで!」。数を数えながら世間話をしたり、隣同士でやり方を教え合ったり。そこには、小学生から上は80歳代まで、さまざまな世代の楽しむ姿がありました。

特別なイベントを新しく企画したわけではありません。もともと地域にあった行事に、「みんなで集まる」という新しい役割を重ねたのです。しかしその効果はてきめん。普段はあまり顔を合わせる機会のない人たちが一緒に行事を楽しみ、地域の新しいつながりを育てていました。

サロンを始めるために、一から何かを始めなくてもいいのかもしれませんが。あなたの地域にも、人がつどう“いつもの行事”があるのではないのでしょうか。今、地域にあるものを、少し見方を変えてみる。それだけで、次のつながりが生まれるかもしれません。（古谷）



梅原区



2026 11. 23 (月・祝) 10:30 ~ 14:00 ※荒天中止

会場 新旭中央公園 & ほおじろ荘

主催 新旭ふくしま祭り実行委員会
(新旭住民福祉協議会、社会福祉法人虹の会)

と き 毎月第3月曜日
14時30分 ~ 15時30分
ところ 朽木診療所
参加費 200円 ※秘密厳守
問合先 朽木住民福祉協議会事務局
090-4038-6109
(地域福祉課 担当:宮田)



01 寄付金報告 令和8年6月～8月受付分／敬称略

- 市内 ● 匿名 …… 金一封
● 匿名 …… 金一封
● マキノ東中学校
17期卒業 同窓会 …… 11,230円
- 市外 ● 連合滋賀
第1区地域協議会 …… 20,000円
● 藤井山彦 …… 4,918円

02 無料法律相談のご案内

弁護士による問題解決に向けての助言で、同一事案での継続相談はできません。要予約、先着順で6人まで受け付け、相談時間は30分です。

また、同一人物からの相談は、1年に1回までです。

とき 10月20日(火) 13時30分～16時30分
ところ こども若者応援ベース みらくる (新旭町北畑45番地1)
予約受付日 10月6日(火) 8時30分～

とき 12月15日(火) 13時30分～16時30分
ところ こども若者応援ベース みらくる (新旭町北畑45番地1)
予約受付日 12月1日(火) 8時30分～
申込先 ☎ 25-5720 (相談支援課)
※上記の電話番号以外での受け付けはできませんので、ご了承ください。

03 広報誌WEBアンケート

今後の「しふくのふくし」作成の参考とさせていただくため、「しふくのふくし」をご覧になったご感想やご意見をお聞かせください。



◀ ご回答はこちらから (Googleフォームサイトが開きます)

※回答期限 令和9年1月31日



04 高島市成年後見制度・権利擁護普及啓発講座 老い支度講座のご案内 参加無料

今は家族と暮らしていても、いつか「おひとりさま」になるかもしれません。元気な今だからこそできる「老い支度」。これからを自分らしく、安心して暮らすための「もし活」を一緒に学び、考えてみませんか。

とき 10月23日(金) 13時30分～15時00分
ところ 安曇川公民館 (安曇川町田中89番地)
申込先 ☎ 25-5720 (相談支援課)



◀ QRコードからもお申込みいただけます。(Googleフォームサイトが開きます)

05 助成車両の購入

滋賀県共同募金会の「地域福祉推進特別助成事業」により、車両1台を購入しました。これからもみなさんの身近な地域に、きめ細かに足を運んでいきます。



▲ 共同募金のロゴマークと、赤色の看板文字が目印です。

06 共同募金委員会NEWS

共同募金運動は、戦後、まだ日本全体が貧しかった昭和22年に「国民たすけあい運動」として始まり、今年で80回目を迎えます。現在は「じぶんの町を良くするしくみ。」として、制度だけでは解決できない問題への取り組みを支援する重要な役割を担っています。

問合先 ☎ 25-5730 (地域福祉課)



▲ 共同募金の歩みについて 知りたい方はこちら



▲ 義援金情報ははこちら